

## PCBOX-II Ver.5.00『道路橋示方書・同解説（令和7年）』への対応について

JIP テクノサイエンス株式会社

## 1. 概要

道路橋示方書・同解説（令和7年10月）改定に対応しました。

## 2. 改定内容

## (1) PC 部材における降伏曲げモーメント照査の追加

プレストレスを導入するコンクリート部材の限界状態1で降伏曲げモーメント照査の規定が追加されました。（Ⅲ編 5.10.2(4)）

## (2) 相反応力部材照査における温度差の追加（Ⅲ編 5.1.3）

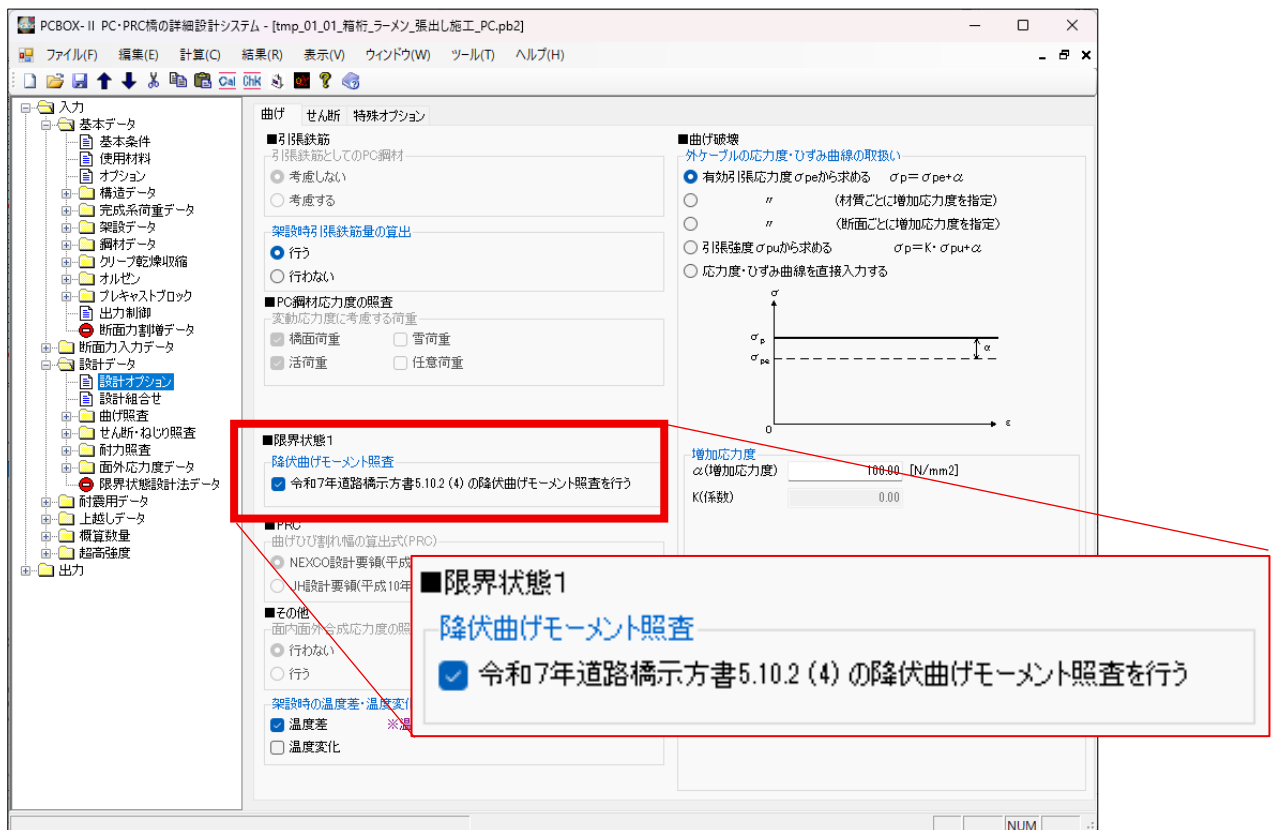
## (3) 従来のV耐震設計編廃止とI・Ⅲ編への編入への対応

偶発作用が支配的な状況であるレベル2地震動を考慮する設計状況に対する規定は従来のV編からⅢ編の10.3.7「主桁の限界状態2」、10.3.8「主桁の限界状態3」に移動されました。

## 3. PCBOX-II の対応

## (1) PC 部材の降伏曲げモーメント照査への対応

標準は従来どおり 5.10.2(2)(3)に規定する応力度制限値による評価としたうえで、追加の照査を参考値として出力することができます。（設計オプション）



曲げ降伏安全度 *** 降伏曲げモーメント及び安全度 *** (クリープ終了時)						$\phi_y = 0.85$	$\xi_1 = 0.90$	$\sigma_a = -2.70$
C 1-1 断面 NO	1.05*D 作用曲げ モーメント (kN.m)	作用軸力 (kN)	上縁から 中立軸まで (m)	降伏曲げ モーメント (kN.m)	曲げモーメント の制限値 (kN.m)	安全度	引張鉄筋 の図心 (m)	図心位置 の応力度 (N/mm <sup>2</sup> )
1*	-0.00	-349.99	1.788	-28857.83	-22076.24	99.999	0.163	0.03
2	2945.72	-349.99	0.287	17805.28	13621.04	4.624	1.978	0.11
3	11551.22	-349.99	0.300	30433.18	23281.38	2.015	2.071	1.87

(2) 相反応力部材照査における温度差の追加

相反応力を生じる部材で組合せに床版温度差 TF を考慮します。

$$1.0(D+PS+CR+SH+TF)+1.3L \dots\dots\dots (5.1.1)$$

$$1.0(L+PS+CR+SH+TF) \dots\dots\dots (5.1.2)$$

(3) 従来のV耐震設計編廃止とI・III編への編入への対応

偶発作用が支配的な状況であるレベル2地震動を考慮する設計状況に対する規定は従来のV編からIII編に移動したため、M-φ計算におけるコンクリートの応力-ひずみ曲線のIII編・V編の選択を廃止し、III編 5.3.4 に従うものとししました。

**M-φ計算**

行わない   
 行う(面内のみ)   
 行う(面外のみ)   
 行う(面内+面外)

---

**コンクリート応力度-ひずみ曲線の指定** ※廃止

道路橋示方書V 耐震編に従う  
 道路橋示方書III コンクリート編に従う